

設置工事説明書

ナショナル ガスコンベクションオーブン

高速ガスコンベクションレンジ
(電子レンジ機能付き)

NE-B703
NE-B704
NE-B603

高速ガスコンベクションレンジ
(電子レンジ機能無し)

GE-B403

工事される方へのお願い

- 条件を外れた設置が原因で生じた故障及び損傷は保証期間内でも有料となります。
- 本製品は一般家庭用の製品です。使用頻度の高い業務用にご使用の場合は安全確保のため必ず定期点検（有料）を受けてください。
- 器具を正しく安全にご使用いただくために説明書をよくお読みになって指定された工事を行なってください。
- 設置工事が終わったら設置工事後の点検確認のチェックリストに基づいて、必ず再確認してください。
- この説明書と取扱説明書、料理ブックは必ずお客様にお渡しください。

設置工事後の点検確認

● チェックリスト

点 検 項 目		点 検 内 容	参照項目	チェック
器具及びその周辺	ガ ス 種	銘板は使用するガス種に適合していますか。	2	
	同 梱 部 品	正しく取り付けられていますか。また不足はありませんか。	3・7	
	可燃物との離隔距離	可燃物との離隔距離、火災予防上の措置は十分ですか。	4	
	設 置 条 件	障害物等との離隔距離は十分ですか。	2	
	保守・管理上の空間	点検・修理に必要な空間はありますか。	4	
	水 平 設 置	水平に設置されていますか。	2	
	安 定 設 置	強固に設置され、ガタツキはないですか。	4	
給 排 気		十分給排気できる場所に設置されていますか。	2	
ガ ス 接 続 工 事		接続は正しく施工され、ガス漏れはありませんか。	5・7-⑫	
電 気 工 事		電源は専用回路になっていますか。アース工事はされましたか。	6	
そ の 他		オーブン庫内に同梱物が残っていませんか。	3	

試運転

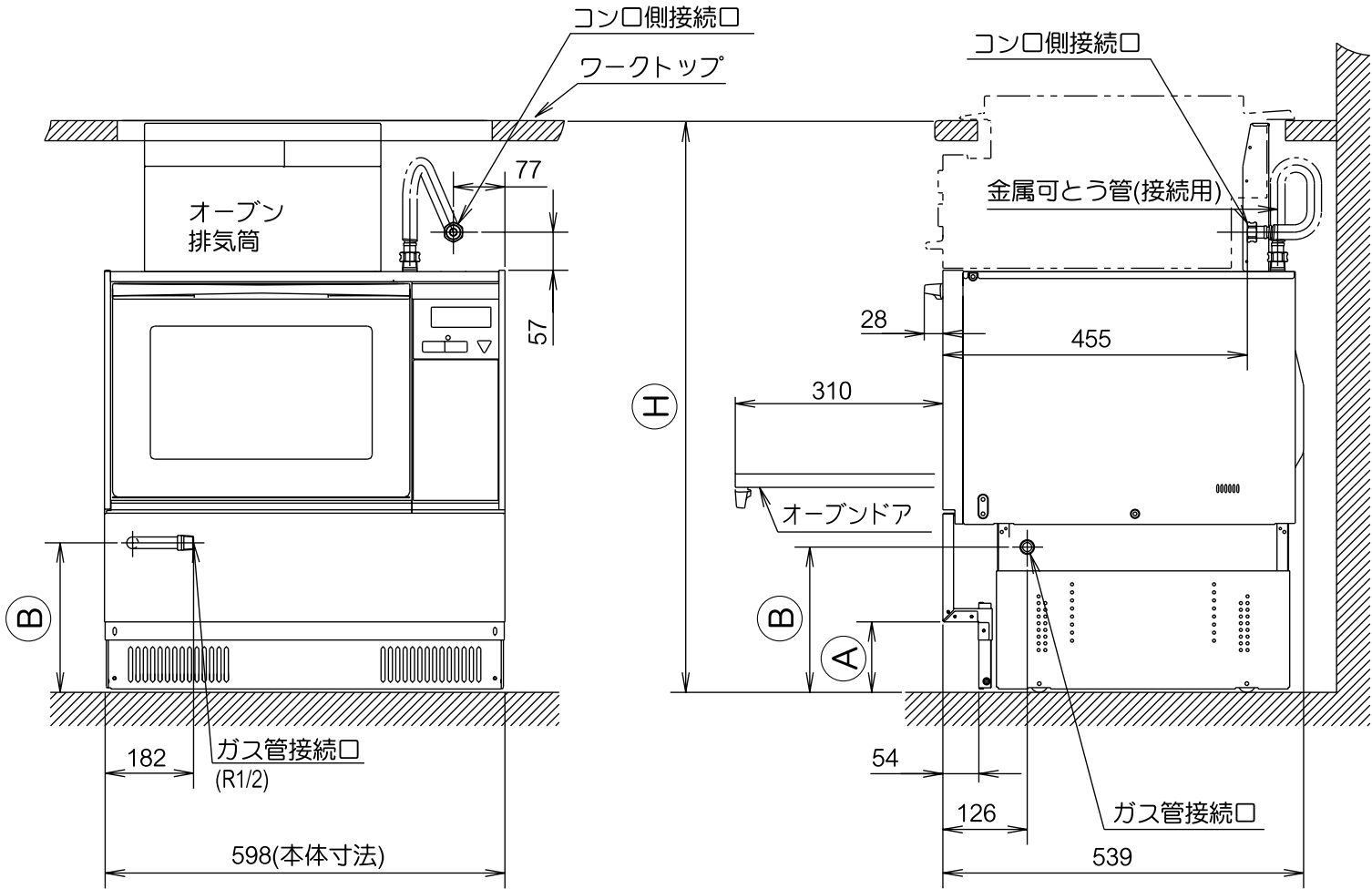
1. 取扱説明書の「使いかた」に基づき試運転を行なってください。
2. 試運転が終了した後長時間使用しない場合は、ガス栓を閉じる等してください。

お客様への取扱い説明

1. 取扱説明書により器具の取扱いを説明してください。
2. 保証書に必要事項を記入の上、お客様に取扱説明書とともに、設置工事説明書も併せて保管していただくようお願いをしてください。

1. 寸 法 図

[単位：mm]



高さ調節

[単位：mm]

■器具の高さH寸法

800～860 mmの範囲で調整できます。
この場合の A・B の寸法は下表の通りです。

出荷高さ： 780	高さ調節範囲	Ⓐワークトップの高さ	Ⓐ	Ⓑ
	800～860	850 800	105 55	198 148





■器具の高さ調節方法



7. 器具施工の手順「④ 器具高さⒶの調節」の項を参照してください。





2. 安全上のご注意 (必ずお守りください)

器具を正しく安全に設置工事していただき、設置工事作業者及びお使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った設置工事を行なうと、設置工事作業者または設置後の製品の不具合により使用者に生じる危険や損害の程度を、次の表示で区分し説明しています。

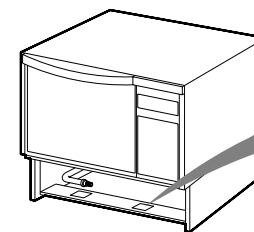
	警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
	注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。
■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。(下記は、絵表示の一例です。)		
	この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。	
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。	

■建築基準法、消防法、各都市の条例、ガス事業法、液化石油ガス法、「ガス機器の設置基準及び実務指針」(日本ガス機器検査協会刊)電気設備技術基準などに従う	■この「設置工事説明書」に従い、有資格者による正しい工事を行なう
	
上記に従わないと、不備により火災などの原因となります。	有資格者以外のもとでの工事は、不備により器具故障や火災の原因となります。

 警告	
■アースを確実にとる	■定格15 A以上・交流100 Vのコンセント・ブレーカーを単独で使う
 アース線接続	
取り付けないで使用すると故障や漏電の時に感電することがあります。	他の機器と併用すると発熱による火災の原因になります。 ●延長コードも定格15 Aのものを単独でお使いください。
■ビルトインガスコンロは、この器具に接続できることを確認する	
	
接続対象外のものや、オープン単独で使用するとガス漏れによる火災の原因となります。	

注意

■銘板に表示の電源(電圧、周波数)およびガス種を使用する



型式名	都市ガス用	
ガス区分	12 A	13 A
ガス消費量 kW		
0000年×月製		

製造年月(〇年×月製)を示します。

異なるガスで使用した場合、異常燃焼となり一酸化炭素中毒や、やけど・火災・故障の原因となります。又、異なる電源を使用すると故障の原因となります。(銘板は、本体内の下部カバー内に貼付)

■設置する部屋には必ず給気口を設ける
(給気口の大きさは、1.16 kW (1 000 kcal/h) 当たり10 cm²以上を目安にする。)



十分な給気ができないと不完全燃焼し、一酸化炭素中毒などの原因となります。

■フークトップが金属製の場合は必ず絶縁テープなどで絶縁処理をする



漏電が発生した場合、感電や火災の原因となります。(電気設備技術基準により義務付けられています。)

■ガソリン、ベンジン、接着剤などの引火性の危険物を扱う場所には設置しない



火災の原因となります。

■水のかかる場所には設置しない



ガラスの破損やけが、漏電による感電の原因となります。

■丈夫で水平な場所に設置する



水平になっていないと、異常燃焼し、一酸化炭素中毒の原因となります。

■この器具を設置する台所が、建築基準法に定める「内装制限を受ける調理室」に該当する場合は、台所全体についても指定の内装材を使用する



建築物の部分などが過熱し、火災の原因となります。

■設置する部屋には必ず排気口を設ける
(ガス消費量が、11.6 kW (10 000 kcal/h) を超える場合、器具の真上に排気フード付排気筒(レンジフード)を設ける)



十分な排気ができないと室内に排気ガスがこもり、不完全燃焼し一酸化炭素中毒などの原因となります。

■器具本体を家具及び家具の一部となる金属部と接触させない



漏電が発生した場合、感電や火災の原因となります。(電気設備技術基準により義務付けられています。)

■棚の下など、落下物の危険のある所、および樹脂製の照明器具の下には設置しない



落下物による火災や、熱による照明器具の変色の原因となります。

■器具後方の排気口(オープン・グリルの排気口)水切りカバーなどでふさがない



ふさがると高温となり火災や一酸化炭素中毒の原因となります。

■車両・船舶への設置はしない



振動により器具が転倒し、火災や器具故障の原因となります。

■ガス接続工事は必ず有資格者が行なう



有資格者以外のもとでの工事は、不備によりガス漏れなどの原因となります。

3. 設置前の確認

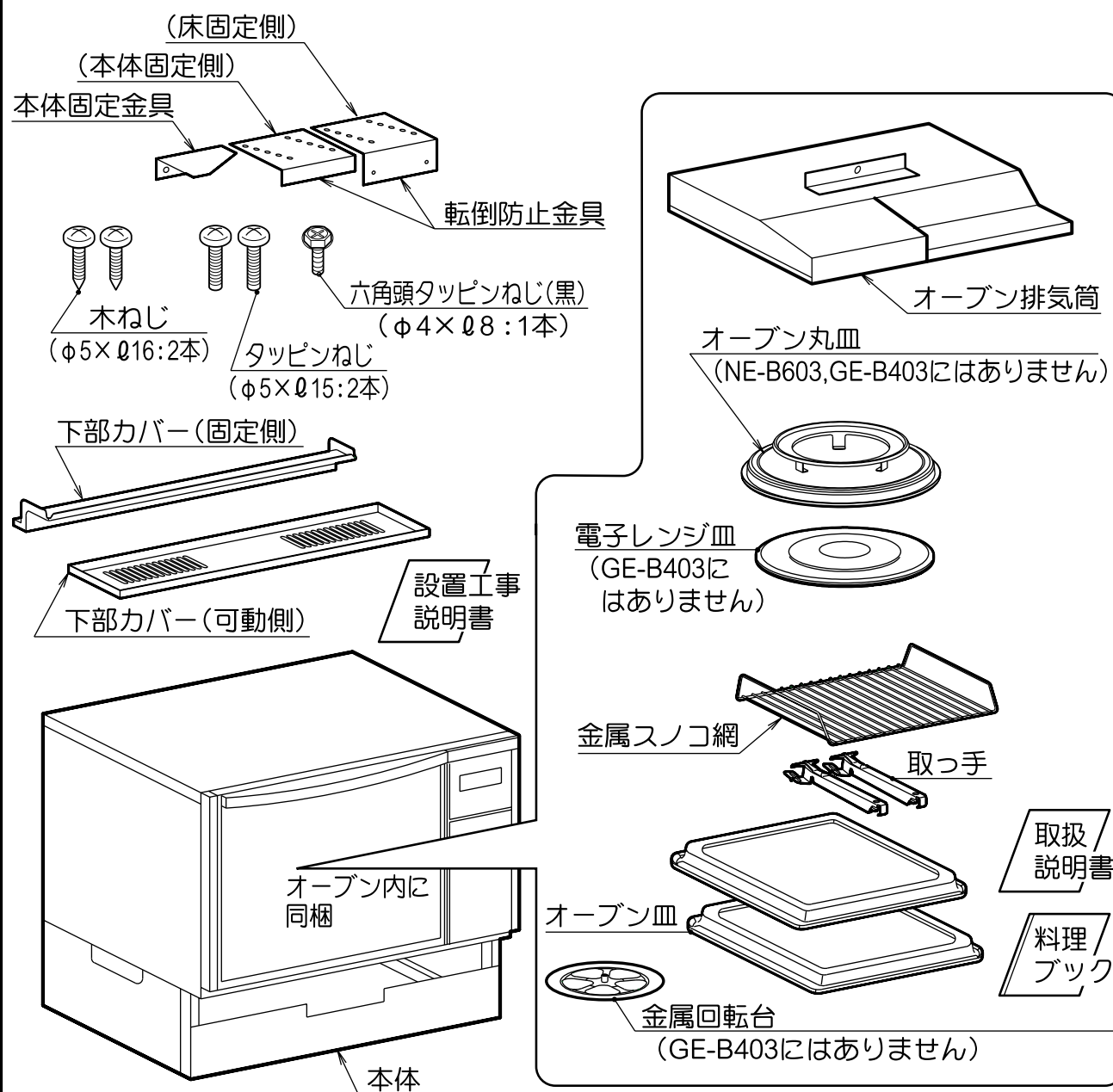
開 梱

■開梱しましたら次の項目を確認してください。

- テープやマットを取り除いてください。……………輸送中器具を保護するものです。
- 器具の外観に異常がありませんか？……………キズ、つまみ類の損傷など。
- 同梱部品の種類と数を確認してください。……………品番により同梱部品が異なります。

※取扱説明書、料理ブックはオープンの中に入っています。
お客様にお渡しいただくまで紛失しないよう大切に保管してください。

同梱部品の確認



4. 設置上のご注意

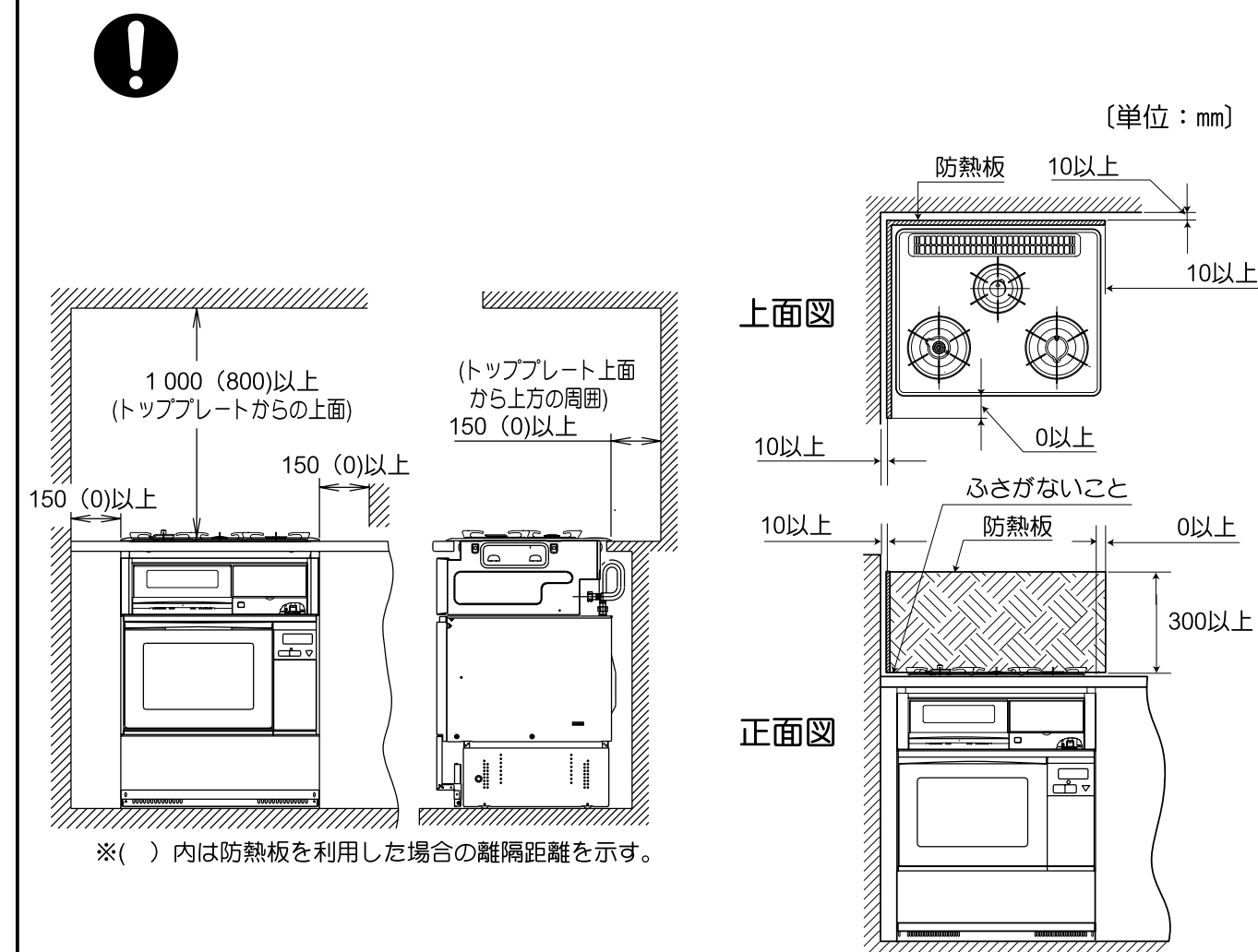
■防火上の離隔距離

器具を設置する周囲の壁などが、防火上安全な場所または、防火上有効な間隔を確保することが出来る場所に設置してください。

- 燃焼器具を設置する場所には、建築基準法や電気設備技術基準、火災予防条例などに定める防火処置を施す必要があります。
- この器具を設置される台所が、建築基準法などに定める〔内装制限を受ける調理室〕に該当する場合は台所全体についても内装材の制限を受けます。

⚠ 注意

■周囲の壁・天井などが防火上安全なものであるか、または防火上有効な間隔をとることができる場所に設置する



〔器具と壁面との間隔を15 cm以上離せない場合、または吊り戸棚などの下面との間隔を100 cm以上離せない場合には、壁面および器具上部へ図のように防熱板(別売品)または防熱板相当の不燃材料を取り付ける。〕

上図は器具と「不燃材料以外の材料による仕上げをした建築物等の部分」との離隔距離を示す。可燃性の壁に、ステンレス板などを貼り付けてご使用の場合も上記内容に従ってください。

※() 内は上記に防熱板を取り付けた場合の寸法を示します。

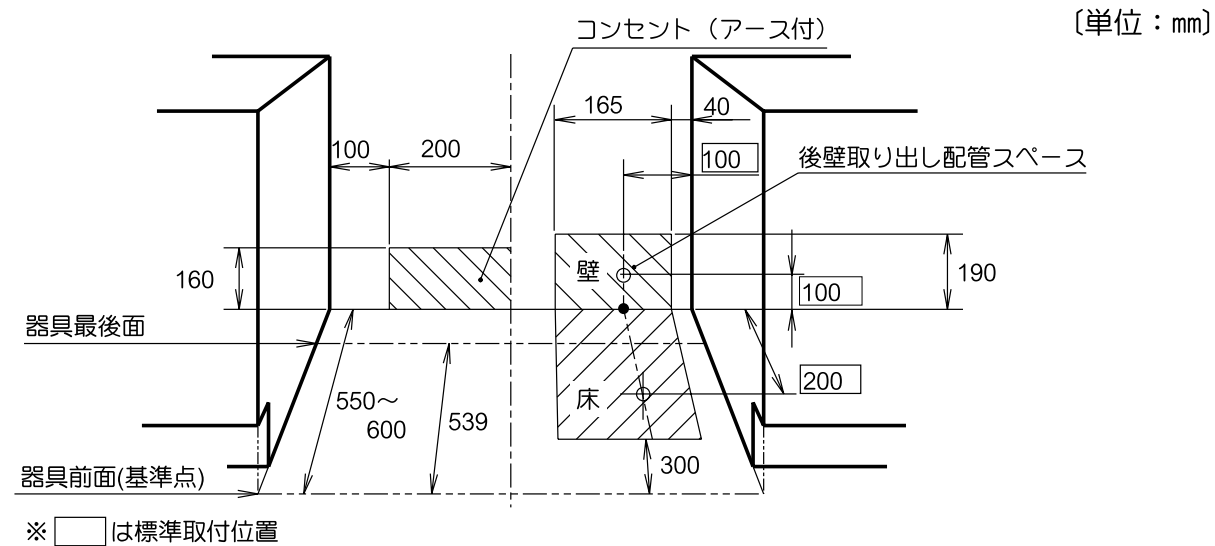
上図の離隔距離を確保できないと器具または建築物の部分などが過熱し、火災の原因となります。

5

- 配管工事については、ガス供給業者の指定工事店にご相談していただくとともに必ず、有資格者により工事をしてください。

ガス管工事をされる方へ

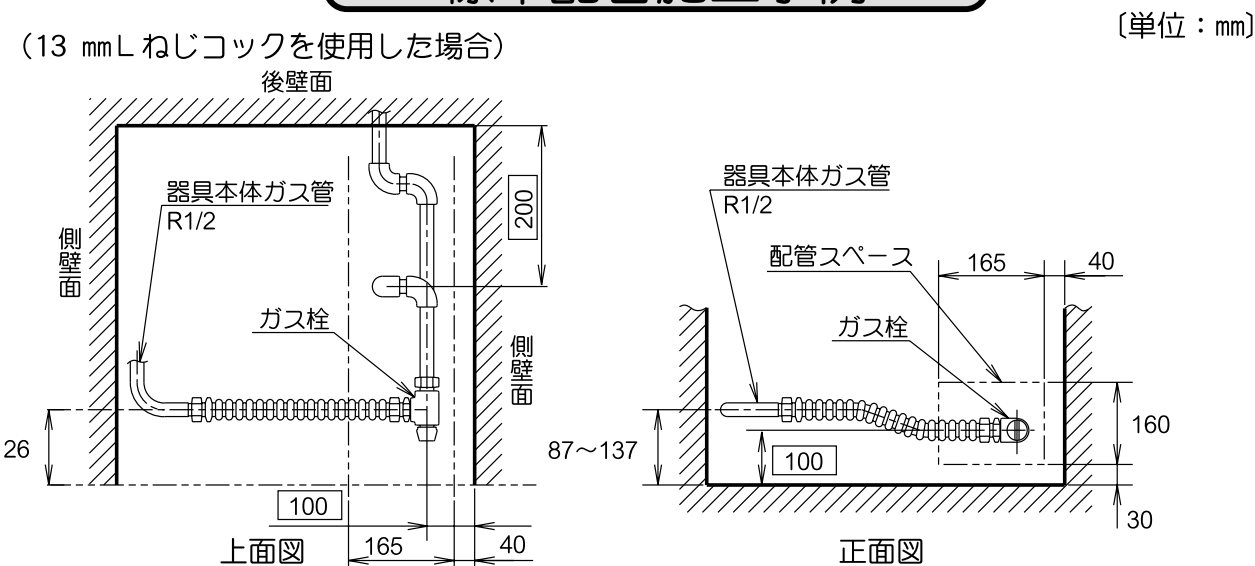
- ガス栓は、標準配管施工事例に従って取り付けてください。
- ガス配管、電源コード、アース線の取り出し位置が下図に合っているか確かめてください。



ガス接続

- ガス接続はR 1 / 2 ねじになっています。必ず金属可とう管にてガス接続してください。鋼管接続されますとメンテナンス時に修理できない場合があります。

標準配管施工事例



ガス漏れの確認

- ガス接続が完了しましたら必ずガス漏れを確認してください。
- ガス漏れ確認の検圧口はビルトインガスコンロの器具本体接続口の近くにあります。(器具後面右下部) (ビルトインガスコンロ側の「設置工事説明書」を参照して行なってください。)

ビルトインガスコンロとビルトインガス オーブンとのガス接続方法

⚠ 注意

- ### ■Oリングについて次のことを確認する



必ず守る

- 1個のみ入れ、複数個入れない
- 金属可とう管に付いていること
- 接続継手に残っていないこと
- 傷がないこと

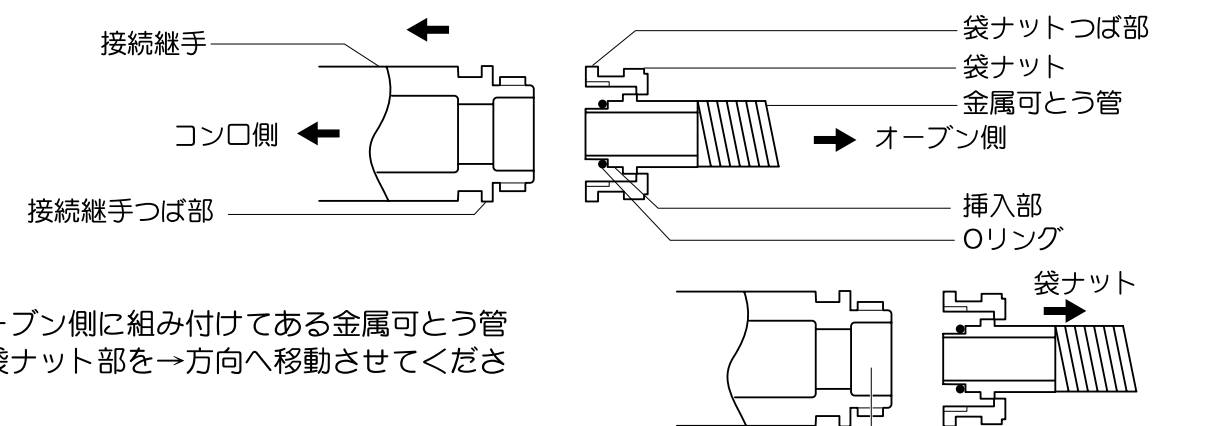
ガス漏れの原因となります。

- 固定金具のスリット穴の中に接続継手と金属可とう管の袋ナットのつば部が入っていることを必ず確認する



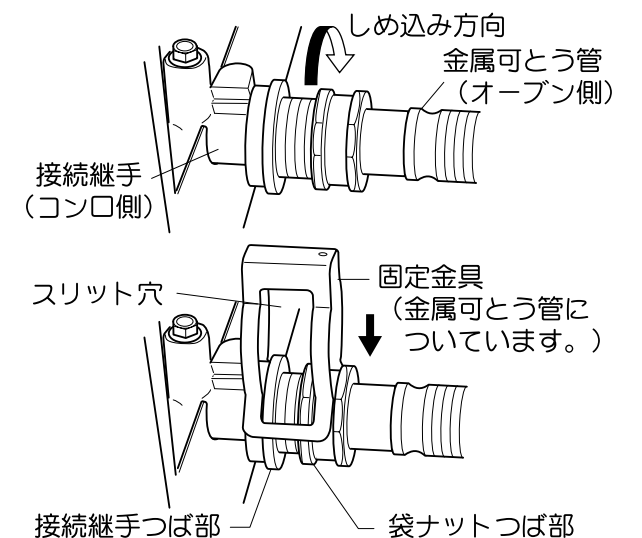
必ず守る

金属可とう管の袋ナットの締まりが不十分であるとスリット穴につば部が入らず、ガス漏れの原因となります。



接続継手にOリングが残っていないことを確認してください。
(Oリングを2個入れるとガス漏れの原因となります)

③手じめで金属可とう管の袋ナットをねじ込んだ後、スパナで確実にしめ込んでください。



6. 電気配線工事

●電気配線については、電力会社の指定工事店にご相談ください。

⚠ 注意

■電源工事や設置工事は「電気設備技術基準」ならびに「内線規定」などに準じる



●電源コードの長さは、1.8 mです。

アースについて

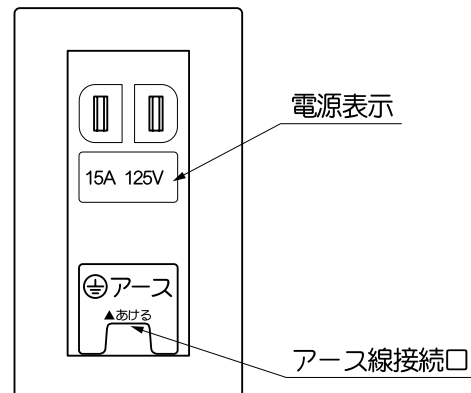
- アースを取り付けてお使いください。
- アースの取り付けは販売店または電気工事店にご相談ください。
- アース線はガス管や水道管、電話線用のアース線には絶対に接続しないでください。

コンセント

■専用コンセントを設けてください。
なお電子レンジ機能付きの場合の電気容量は15 A以上にしてください。

〔推奨コンセント〕アースターミナル付
松下電工製 WN1031

電 源	交流100 V 50-60 Hz	
消費電力	電子レンジ	オープン
	1.22 kW	74 W

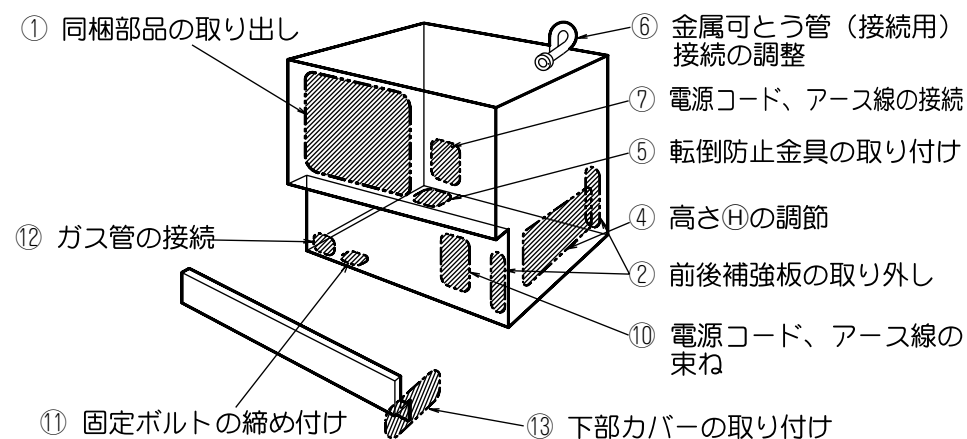


●この機器はAC100 V用です。必ず電源を確認後、プラグを入れてください。

7. 器具施工の手順

手順と設置箇所の説明図

※手順に沿って施工してください。



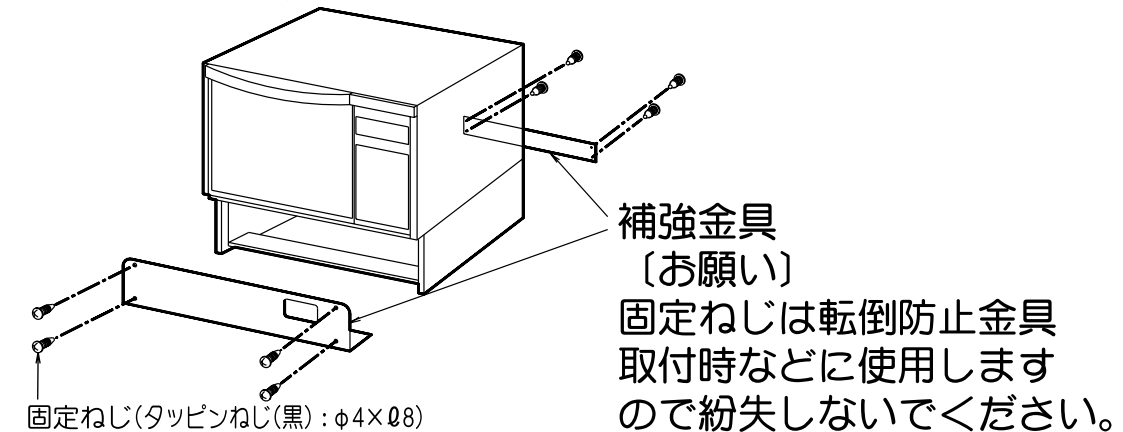
7. 器具施工の手順

① 同梱部品を取り出す

- オープン庫内、収納ユニットから同梱部品を取り出してください。
- 同梱部品の確認をしてください。「3. 設置前の確認」を参照。

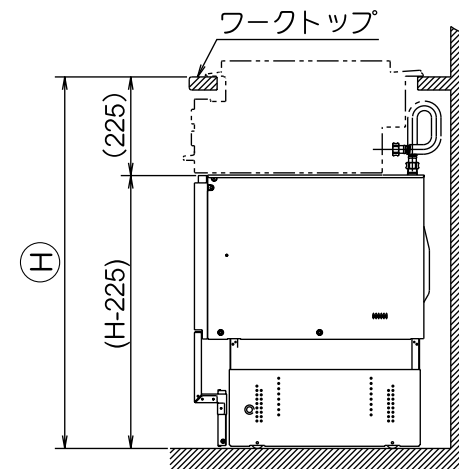
② 前後の補強金具と固定ねじを外す

〔補強金具は輸送時のもので施工時は不要です。〕



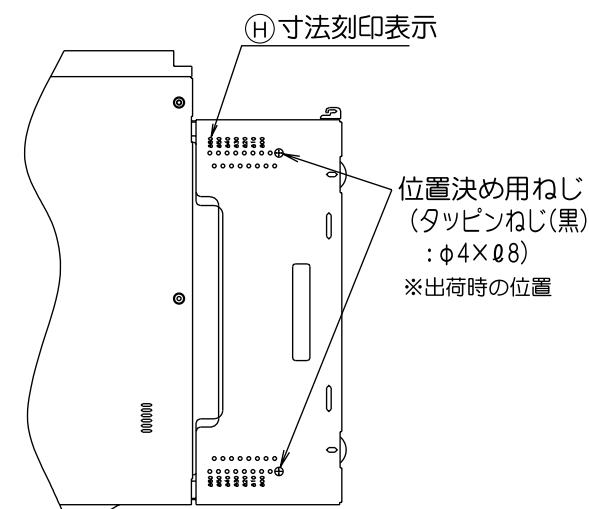
③ 器具高さHの確認

- ワークトップの高さHを確認してください。
 - 〔お願い〕
 - ワークトップ高さHは床面から最も低い寸法にて「④器具高さHの調節」を行なってください。
- ※床面が傾いたり、著しい凹凸がある場合、設置後ビルトインガスコンロが浮く場合があります。



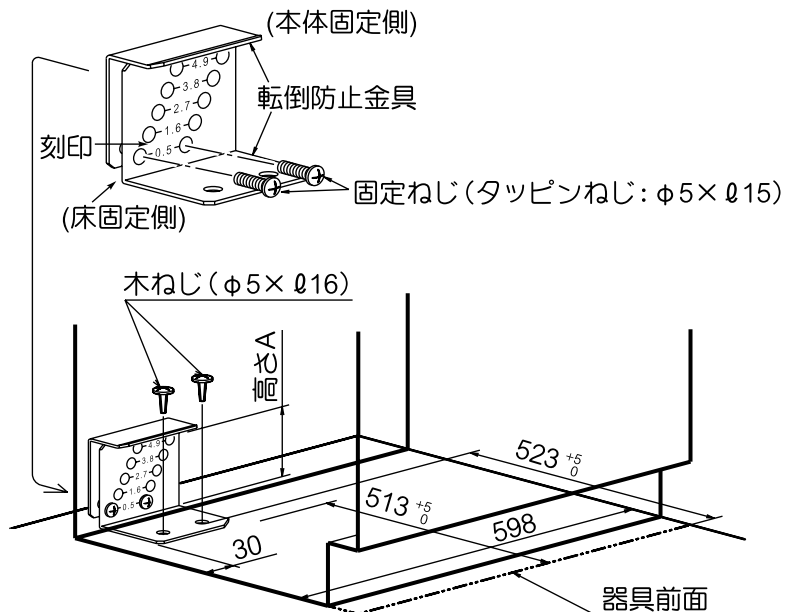
④ 器具高さHの調節

- 器具を右図(後ろ向き)のように倒して、位置決定用ねじ(黒)×4本(片側2本)を調整したい位置(刻印の数字)に付け替え、固定してください。
高さH=800~860 調整可
- 〔お願い〕
- カウンター高さHが5 mm間隔の中間となった場合、必ず低い寸法に合わせてください。
例…「827」の場合、刻印「825」に合わせる
- 器具を倒したり、立てたりする場合、急激に倒したり、床面などに傷を付けないように養生シートなどを敷いてください。
- 固定用ねじ、位置決め用ねじを紛失された場合、7.②項で外したねじを使用してください。



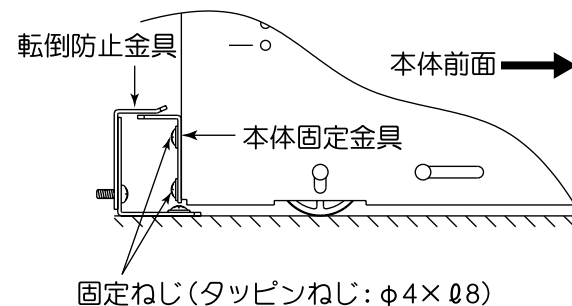
⑤ 転倒防止金具の取り付け

- ① 転倒防止金具の床固定側と本体固定側を固定ねじ2本で固定する。
※刻印「-0.5-」の穴位置に合わせて固定してください。



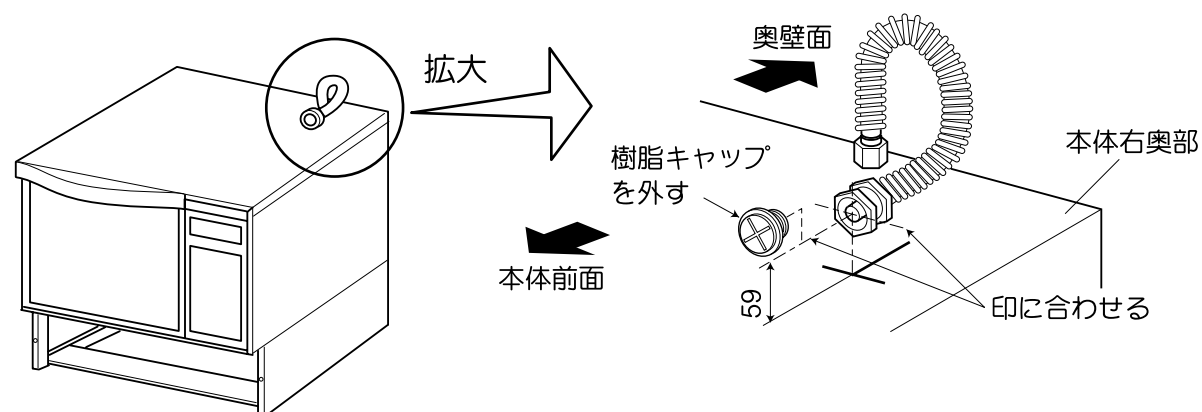
- ② 右図の寸法に合わせ、木ねじで転倒防止金具(床固定側)を床面に固定する。

- ③ 本体左下奥に固定ねじで本体固定金具を取り付ける。
(本体固定金具用の固定ねじは7.②項で外したものを使用してください。)



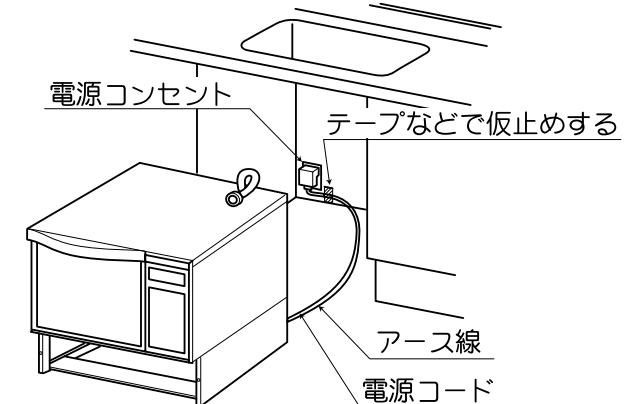
⑥ 金属可とう管の調節

- 白い樹脂キャップを外す。
● 器具に組付している金属可とう管を下図のように曲げる。



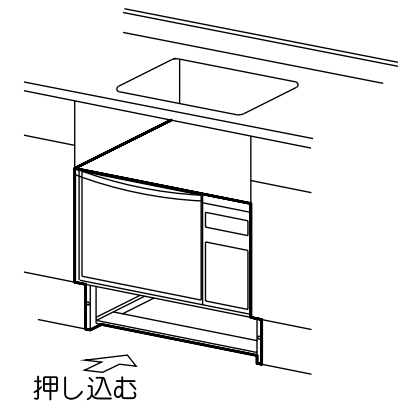
⑦ 電源コード、アース線の接続

- 電源コードのプラグは電源コンセントに、アース線はアース端子に接続する。



⑧ キッチンにセットする

- 本体をキッチンにはめ込む。
● 電源コード、アース線がかみ込まないように注意する。

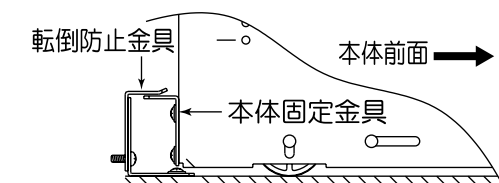


⚠ 注意

■ 器具を確実に固定する

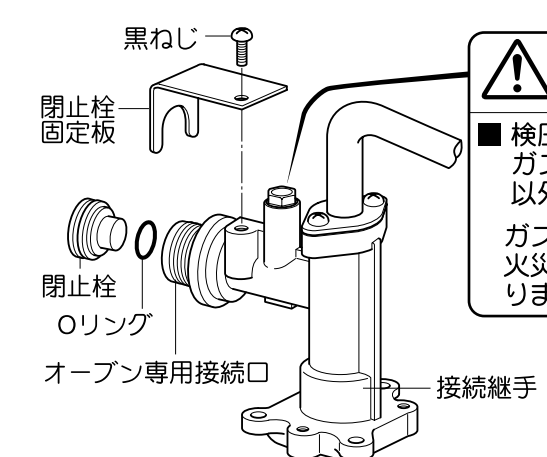


器具の左下奥の金具で固定されています。固定されていないと器具が傾き、やけどやけが、火災の原因となります。



⑨ ビルトインガスコンロとの接続

- ガスコンベクションを設置した後、器具の接続用金属可とう管をビルトインガスコンロに接続してください。
● 詳細については、ビルトインガスコンロ側の「設置工事説明書」に従い接続してください。
● 金属可とう管にOリングが、1個入っていることを必ず確認してください。
● ビルトインガスコンロのオープン専用接続口にOリングが残っていないか確認してください。
● ビルトインガスコンロのみの買い替え時には、コンロ側の新しいOリングを使用してください。
● 接続用金属可とう管はあらかじめ「⑥ 金属可とう管の調節」に従い、調整しておいてください。



⚠ 注意

■ 検圧口ねじは、ガス漏れ確認時以外は外さない
ガス漏れによる火災の原因となります。

⚠ 注意

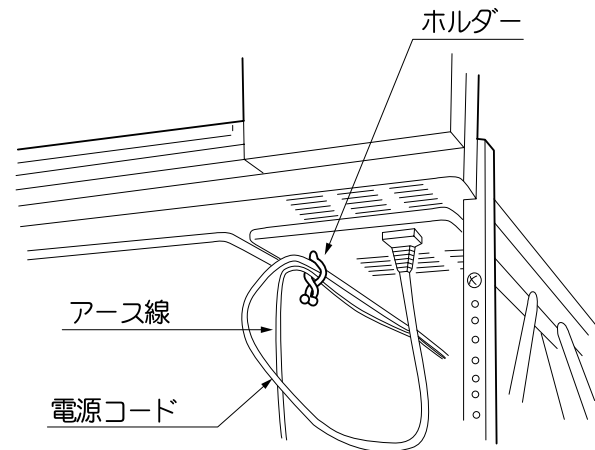
■ Oリングを残さない
ガス漏れによる火災の原因となります。

※ Oリングが取り外されていることを必ず確認してください。閉止栓を取り外したとき、Oリングが接続継手に残っている場合があります。

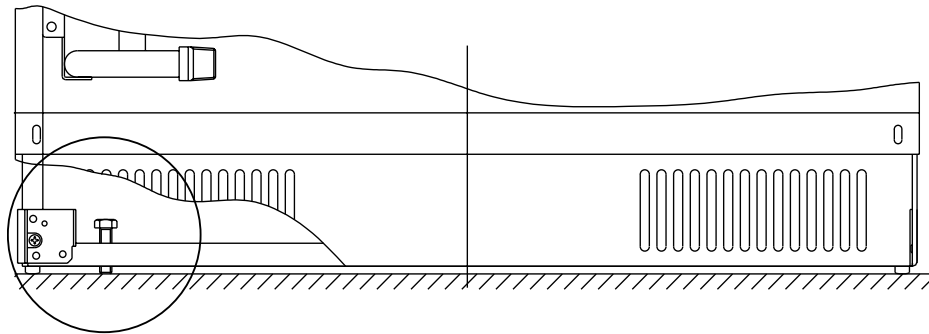
7. 器具設置の手順

⑩ 電源コード、アース線を束ねる

- 図のように電源コード、アース線を束ねてホルダーで固定してください。

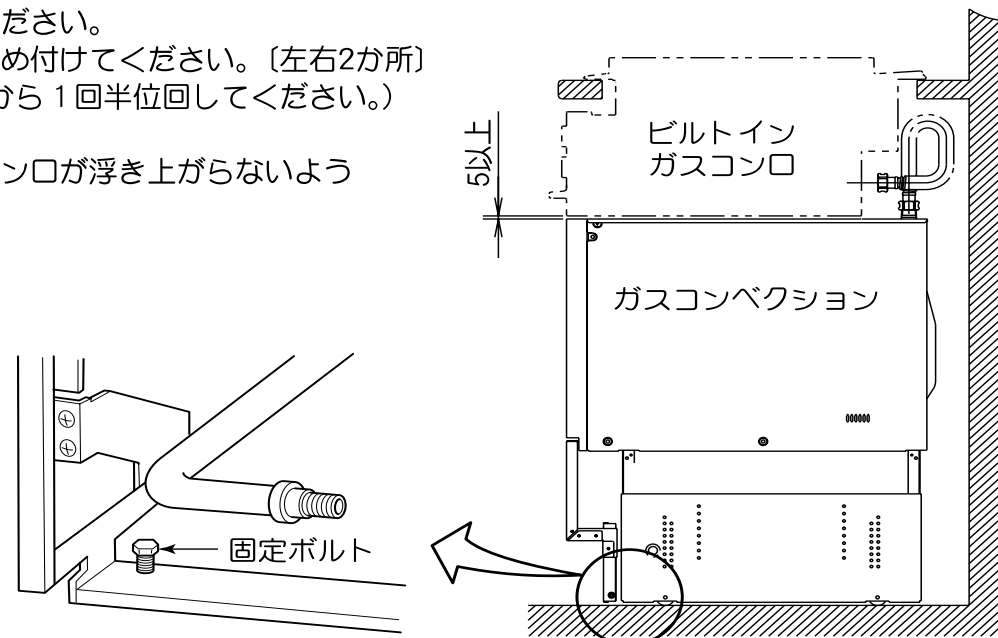


⑪ 本体下部の床固定ボルトを締め付ける



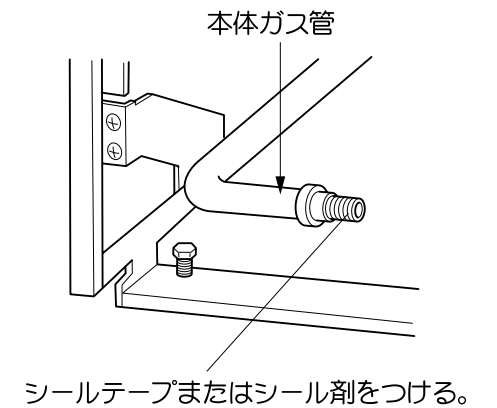
- 左右のユニットの扉前面と器具の前面とのツラを合わせてください。
- 固定ボルトを締め付けてください。[左右2か所] (床に当たってから1回半位回してください。)

ビルトインガスコンロが浮き上がらないようにしてください。

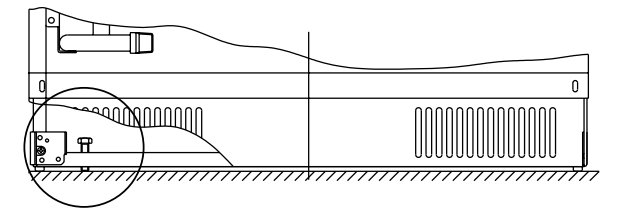


⑫ ガス接続をする

- ガス引きこみ管と本体ガス管を接続する。
- ※別売品の金属可とう管を使用のこと。
- ※必ずガス漏れ検査を行なうこと。
- ※ガス漏れ検査後、検圧口のねじがしまっていることを確認してください。
(検圧口は、ビルトインガスコンロの接続口の近くに
あります。詳細は、ビルトインガスコンロの「設置工
事説明書」を参照してください。)



⑬ 下部カバーを取り付ける



手順①②③に従う

手順①

下部カバー(固定側)の固定ねじ(2本 [左右各1])を外す。

手順①

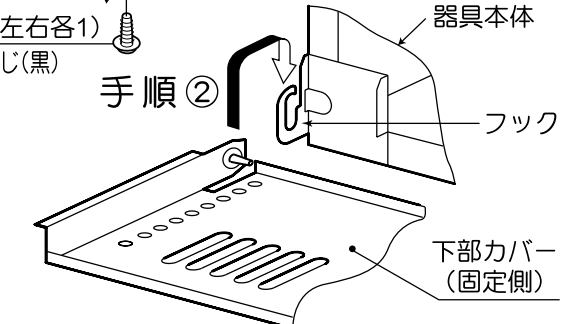
固定ねじ(左右各1)
(タッピンねじ(黒)
: φ4×08)

手順②

手順②

下部カバー(固定側)を本体のフックに差し込む。

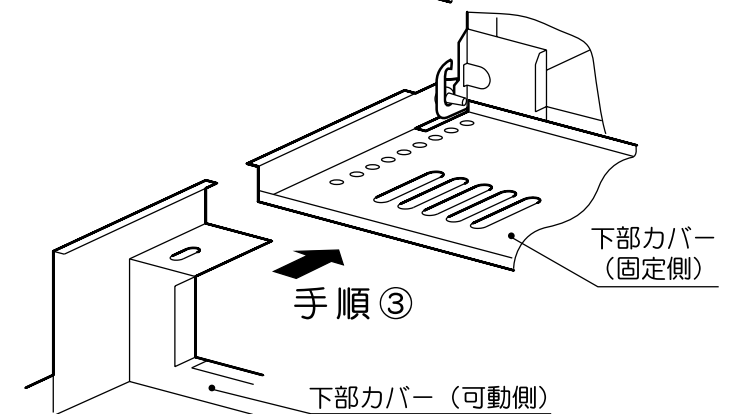
手順②



手順③

下部カバーの可動側を固定側に差し込む。

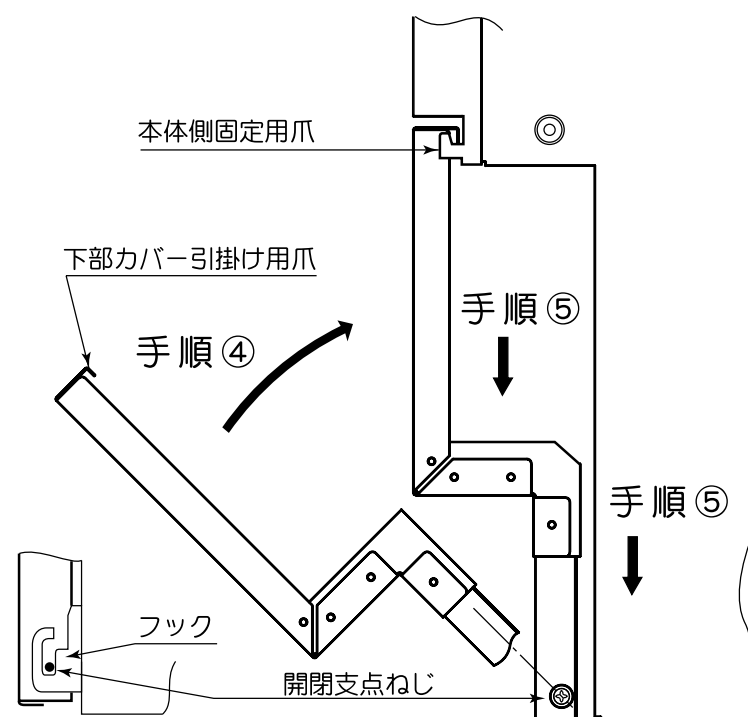
手順③



⑬ 下部カバーを取り付ける (つづき)

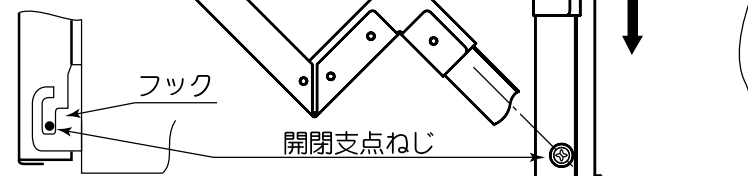
手順④

2 部品がスライドする状態で下部カバーの引掛け用爪を本体固定用爪に引掛ける。



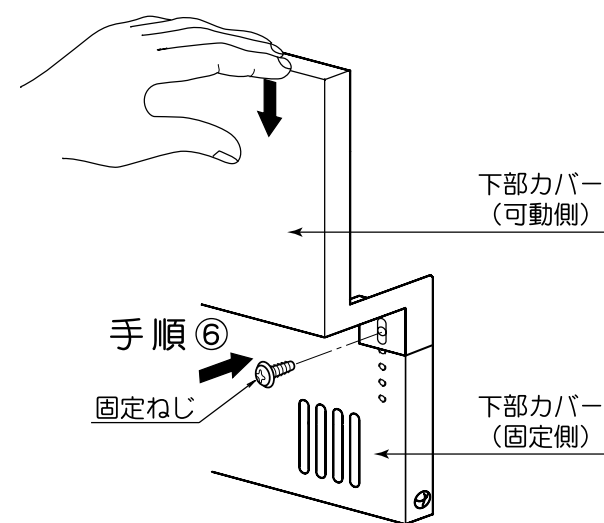
手順⑤

下部カバーを⑤の↓方向に引っ張る。
※この時、開閉支点ねじがフックの最下部と当たること。



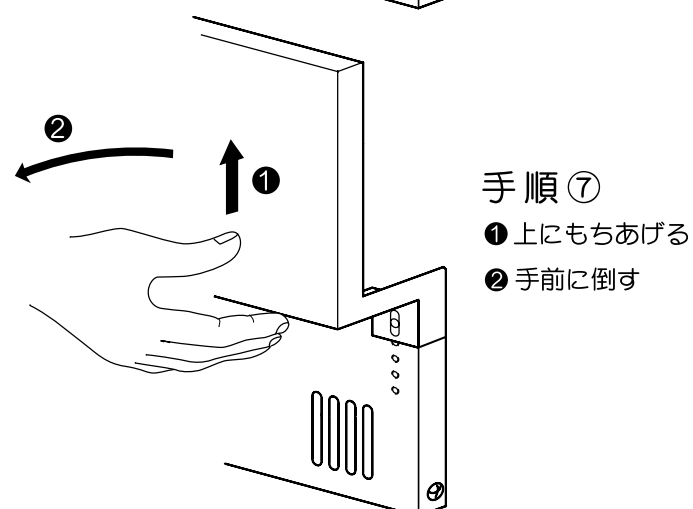
手順⑥

正面より下部カバーの固定側と可動側の穴が一致したところを固定ねじで固定する
※この時下部カバー(可動側)が上に持ち上がらないよう押え込む。



手順⑦

下部カバーを開閉させ正常に着脱できることを確認する



⑭ 試運転する

- 表紙の「設置工事後の点検確認」の「●チェックリスト」によりチェックする。

製造者

松下電器産業株式会社 トフレ・ヒーティングビジネスユニット
〒639-1188 奈良県大和郡山市筒井町800
TEL (0743) 56-1121